放課後等デイサービス だいち
TSUBASA TEL 099-297-6286

「だいち」のおたより

保護者向け通信

２０１７年１１月号

ごあいさつ・・・

だいち　指導員（保育士）　　橋口　加奈

１０月からだいちでお世話になっています。「橋口加奈」です。よろしくお願いします。

私は保育系短期大学を卒業後、県内の児童養護施設で 5 年経験を積んできました。家庭でのさまざまな理由により親と一緒に暮らすことのできない２歳から１８歳の子どもが入所している施設で、親代わりとなる仕事をしてきました。子どもたちと寝食を共にし、学校・地域行事にも参加する日々で、成長を近くで見届けたり、毎日元気に登校し、帰宅後は学校での出来事を嬉しそうに話す姿に嬉しさを感じる一方、子どもを育てることの大変さを感じる日々でもありました。入所している子どもの中には療育を必要とする子もいましたが、日々の業務で手いっぱいなところもあり、深く関われないことが多くあり、「療育」というものにとても興味を抱くようになりました。1 度、だいちを見学させて頂き、子どもたちがのびのび楽しそうに活動をしている姿や、スタッフのみなさんと楽しそうに関わっている姿、スタッフのみなさんも子どもたちに丁寧に接している姿をみて、私も一緒に働きたいと思い、お世話になることになりました。

働き始めて、子どもたちの元気いっぱいさに圧倒される毎日です。ですが、元気さだけではなく、宿題を頑張っている姿や他の子を思いやる姿、甘えてくる姿。子どもたちの色んな姿をみることができて毎日楽しくお仕事をさせていただいています。不慣れなことも多く、子どもたちへの配慮が足りないこともありますが、1 日でも早くお仕事に慣れ、子どもたちに寄り添いたいと思います。

私は保育者として気をつけていることが２つあります。1 つ目は子どもたちの手本となること。子どもは大人のことをびっくりするくらい良く見ています。言葉づかいや立ち振る舞い、子どもたちにしてほしいこと、なってほしい姿を私自身が示せるようになりたいと思っています。2 つ目は全員と同じくらい関わりを持つこと。どうしても元気いっぱいな子、手助けが必要な子に目が行きがちになります。私自身、大人しい子＝何もない子（支援が必要ない）と勘違いをしていた頃もあります。子どもたち１人ひとり支援が必要なところは違うため、早く子どもたちの特性を理解し、適切な関わりをしていきたいと思います。

これから私にできることはあるのかと不安も大きいですが、精一杯頑張りますのでよろしくお願いします。

放課後等デイサービス　おおぞら　開設準備中

おかげさまで現在、「だいち」利用児童数が受入可能限度に達しつつあります。しかし、放課後等デイサービスを必要としている児童は多い状況で、少しでもお力になりたいと思い、２つめの事業所開設準備を進めています。

２つめは「おおぞら」と言う名前で、「だいち」の近くになる予定です。児童が両方の事業所を利用してもらえるように、契約をお願いしようと考えています。スタッフも、「だいち」と「おおぞら」両方で勤務して、現在のサービス内容を堅持しつつ、送迎の利便性も図ろうと計画しています。

１２月営業開始を目指していますが、許認可を得るための準備がまだ整っておらず、急いで作業を進めているところです。

中でも一番重要なスッタフの増員が難しい課題です。保護者の中で、「だいち」や「おおぞら」で働いてみたいと思われる方はいらっしゃいませんか？

お友だちやお知り合いの中に、『保育士』の資格をお持ちで応募して下さる方はいらっしゃいませんか？どんな些細な情報でも構いませんので、是非お教え下さい。

なお、ハローワークを介しての求人となりますので、勤務条件など興味のある方はハローワークで「だいち」の求人票をご覧ください。

冬休み利用予定調査表提出をお願いします！

少し早いのですが、そろそろ冬休みの計画を立てようと思っています。

別添「冬休み利用予定調査表」に、利用契約に基づく冬休みの利用予定が書いてあります。これをご覧頂き、欠席等がはっきりしているところなどがありましたらお教え下さい。変更点の無い方も、その旨お教え下さい。終日利用日のお出かけ計画や、スタッフの勤務予定表作成時に参考とさせて頂きます。　お忙しい時に申し訳ありませんが、１１月１５日（水）までにお届けください。よろしくお願い致します。

だいち　がんばった大賞　の紹介

毎日ひとりずつスタッフの話し合いで、その日に最も頑張る姿が印象的だった児童を表彰しています。セルフコントロールが難しい特性の児童が、受賞を目指して頑張る姿は感動的です。自分の特性を理解して努力することと、他のお友だちが頑張ったことを認め合い称え合う機会になっています。

全児童が受賞の機会を得るように、みんなの頑張る姿を全スタッフで見つめながら支援活動を行っていこうと思います。